

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072000336		
法人名	医療法人 幾嶋医院		
事業所名	グループホームゆとり庵	ユニット名	ゆとり庵Ⅰ
所在地	福岡県柳川市田脇754-3		
自己評価作成日	2021年月日	評価結果市町村受理日	2021年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年12月3日	評価確定日	2022年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設当初から利用者様ご自身で書き記された「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」という言葉を、胸に刻んでいる。医療との連携を取り、スタッフが観察したことを医療側に毎日二回報告している。食事の面でも薄味を心がけ糖尿病職や貧血、低体重等個人の状態に合わせた味付けや、食事形態、食事内容にして注意を払い、健康管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

柳川市田脇にある“ゆとり庵”は幾嶋医院と同じ敷地内にあり、24時間体制で医療連携が図られている。ホームの名前の通り、日々の生活には“ゆとり”があり、ホームの庭の芝生にベンチを置き、日光浴や団らんの時間を過ごされたり、お茶を楽しまれている。生活全般に介助が必要な方が多く、水分量、排泄状況、嚥下状況、顔色等を丁寧に観察し、院長先生と看護師に報告している。「元気で暮らせるように」「できるだけ楽しく」「できるだけ自分でできるように」という視点で指の運動や手の運動、軽運動、ラジオ体操なども行われ、コロナ禍でも楽しい生活になるように、ホーム内で「七夕まつり」「魚釣り大会」「かき氷祭り」等を職員が企画し、ご利用者の笑顔を引き出している。2021年度は新体制となっているが、管理者を中心にチームワーク作りを続けており、「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」という理念の実践に繋げている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を+E28:T29つくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づいて個人個人の持っている能力を最大限に活かし続け支援する。	「一日一日を大切にあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」という理念を大切にされている。運営理念の①②は「①高齢者の正しい理解」「②寄り添う介護」であり、院長先生から症状や治療内容の説明を受け、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	火災訓練、祭り等参加し交流している。	コロナ以前は七ヶ家地区の秋祭りの時に、子供神輿に来てもらったり、幾嶋医院ふれあい祭りでは、ご利用者が赤い法被を着て参加し、地域の方と交流していた。みのり幼稚園の慰問もあり、肩もみ等をして下さったり、小学生の訪問も行われていた。認知症カフェを毎月開催し、「しめ縄飾り」等を行っていたが、コロナ禍は各種行事が中止になっている。感染状況が落ち着いてきた事もあり、1つのユニットにボランティアの方をご招待し、フォークダンスを披露して下さい。	①今後は訪問販売（パン屋）を利用できる取組みを行い、ご利用者の方々にパンを選んでいただいたり、地域の方にもお声かけし、一緒に購入する機会ができればと考えている。 ②今後も更に、みのり幼稚園や小学生、ボランティアの方々との交流方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のイベント、お祭り、火災避難訓練や消火訓練、地域運営推進会議等は地域の方にも案内を出し、参加してもらっている。また、認知症サポーターの養成講座にも協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や職員の異動、現状報告、ヒヤリハットやインシデント、事故報告、認知症や高齢者に関する話について具体的に話し、質問に答えたり意見を伺っている。ご利用者様の日常や暮らしぶりを報告している。	2021年度は新体制になり、地元に住む職員と一緒に地域の挨拶回りが行われた。運営推進会議では外部評価結果も報告し「活動の内容がわかりやすくてよい」等のご意見を頂けた。コロナ禍は書面会議が行われているが、2021年11月29日は2年ぶりに集っての会議を行うことができ、ホームの取組み等の情報交換を行うことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告、運営推進会議で連絡を取っている。	運営推進会議に市役所と地域包括の方が参加して下さい、移動販売（パン屋）等の情報交換が行われた。広域連合から人員体制の指導もあり、改善が行われた。不明点があれば、適宜相談し、アドバイスを頂いている。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権について毎年1回内部研修を行っている。但し、入浴時等のスタッフの手薄な時は危険防止の為、一時的に施錠する事がある。	身体拘束廃止委員会を年4回行っており、院長先生が司会を務めている。身体的拘束等の適正化のための指針もあり、ご利用者の喜怒哀楽に寄り添い、原因分析も丁寧に行っている。院長先生から「ご利用者の体に触れて下さい」と指導を頂き、7ヶ月ケアが行われている。毎週院長先生と利用者の状態を話し合い、必要な時には薬を使用し、症状が治まれば徐々に減薬し、ご利用者と介護者共に最適な状態になるよう調整を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の詳細について勉強会を開催し、知識の確認を行っている。また、スタッフ同士声掛けをし防止に努めている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の説明について毎年1回内部研修を行っている。活用する際には管理者はその必要性を職員に説明し理解させている。	毎年の研修時に管理者が制度の説明を行い、職員も権利擁護の理解を深めている。入居時に家族に制度の説明を行うと共に、入居後も制度利用の必要性を確認している。成年後見制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換を続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学に来てもらい、その時に時間をかけて話し合っている。契約時も重要事項説明をきちんとし、できるだけ時間をかけて契約している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的な窓口相談を契約書に明示し、口頭でも説明している。年2回家族へのアンケートを取っており、その内容を会議の場で発表し要望があれば検討して運営に反映させている。	毎月、お便り（写真）を送付している。「家族とのつながりを大切にします」という運営理念のもと、コロナ禍も窓越しの面会や電話等で情報交換している。家族の方々に運営推進会議への参加をお願いしたり、アンケートも行い、要望や困っていること等の把握に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議や日常的に提案や意見を聞く場を設け、仕事に反映させるようにしている。	2021年度は新体制になっており、管理者が中心になり、チームワーク作りを続けている。職員からの意見を大切にしており、会議の中で担当者（在庫係、レク係など）を決めて業務に取り組みされている。夜勤専門の職員とも密に情報交換している。	

12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間が大幅に増えすぎないよう人員の確保に努め、残業にあたっては残業指示書を書きサービス残業にならないようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用の基本条件は高齢者の介護に向いているかどうかで判断している	採用時は「人柄」を大切にしている。職員の年代も幅広く、男女の職員が勤務している。職員の紹介で採用になる方もおられ、採用後はバリッ・和裁・畑仕事（ブロッカー作り）・料理・踊りや歌等の特技を發揮してもらっている。開設以来、「ケアの根拠を考える」ための研修も行われてきており、職員間で意見交換を続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にもあるように「人として愛される」ことを常に念頭に置くよう指導している。年1回管理者による人権研修を行っている。	内部研修で「ハラスメント研修、LGBT研修」を実施している。開設以来、院長先生等から「尊厳」「適切なケア」「医療」等を含めた丁寧な指導があり、職員の方々も着実に日々の実践に繋がってこられた。院長先生と管理者が日々のケアやミーティング等で、「ご利用者を自分の肉親だと思って接してください」と伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種団体や市・県などの研修案内を元に、運営者と管理者が内容を検討し、シフトと個人個人の研修歴を検討したり個人の希望を考慮して受講させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会に入会しており、研修の参加や地区内の事業者との交流を行っている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

17	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時の面接に時間をかけており、入居後も積極的な声掛けにより本人の希望を聞く努力をしている。</p>		
18	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居の申込みや見学に来られた時から困っていることや不安など相談に乗り、入居後も面会時に不安の無いよう利用者の状態報告している。職員も家族と談話することで関係が出来るので、挨拶や会話を心がけている。</p>		
19	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談の時に必ず他施設や他のサービスの紹介を行い、共に考えて方針を決めており、何が何でも抱え込むようなことはせず、常に利用者や家族にとって何が必要かを念頭においた相談業務をしている。</p>		
20	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>色々な作業や会話、声掛けの中で築いている。</p>		
21	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナ以前は面会時は居室にてゆっくりと家族水入らずで過ごしてもらえるようにしていた。電話等の取り次ぎもし、又毎月職員が家族へのお便りを書き、少しでも安心して頂けるように心掛けている。</p>		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達が訪ねてきやすい雰囲気づくりに努力している。	何気ない日々の生活の中で、ご利用者の方から生活歴を伺っている。コロナ以前は利用者の近所の方が毎月来て下さり、居室で団欒されたり、家族と自宅に行かれたり、法要に行かれる方もおられた。会話が出来る方が減っているが、日々のレクの中で懐メロを流して、昔の事を思い出して頂いている。今後も馴染みの場所などを把握し、楽しめる時間を増やしていく予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ食堂やリビングなどで過ごし、部屋に閉じこもらないように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方がホームで看取りをされての退居であるが、退居後の書類や手続きなど相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で一人ひとりと会話をし、本人の希望や困っている事など気持ちに寄り添うように努め、毎月1回個別会議を開き一人ひとりに応じた支援に努めている。	日々の生活の中で想いや意向を把握している。意思疎通が難しい方は目線や手の動き、表情等と共に、どのような時に不穏になれるのかを確認している。食事摂取量、体重の変化などを会議や午礼時に職員で情報共有し、個別ケアの検討を続けている。生活歴も大切に花が好きの方にはプランターに苗を植え、水やりなどをして頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のアセスメントを周知し、入居前にどういった暮らしをされていたのかを知り、家族の方とも情報交換をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな変化や気づいた事は記録に残し、月1回のケース会議や毎日のミーティングで検討をしている。一人ひとりの体調や行動を見守り状態に応じて支援している。		

28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケース会議、月1回の家族との面会、担当者他職員の情報をもとに作成している。	入居時は前施設の情報や家族から情報を頂くと共に、ご本人に意向の確認をしている。アセスメントは時間をかけて行い、担当職員と一緒にアセスメントしている。生活全般に介助が必要な方が多く、水分量、排泄状況、嚥下状況、顔色などを丁寧に観察しており、「元気で暮らせるように」「できるだけ楽しく」「できるだけ自分のできるように」という視点で指の運動や手の運動、軽運動、ラジオ体操なども盛り込まれている。生活歴も把握し、「プランターの苗に水やり」等の役割を担って頂いている。	①今後もアセスメントの「一部介助」の詳細を記入し、ご利用者の有する能力（できること・できそうなこと）と共に、介助理由や行動・心理症状の理由、要望、解決策等の記録を増やしていく予定である。 ②2表に「ご本人」を追記するとともに、ご本人と家族と話し合う機会を更に増やしていく予定である。 ③アセスメントと計画の整合性を図りながら、3表の24時間のケア内容や留意点などを増やしていく予定である。
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、介護記録、夜勤簿、日勤簿等により、会議で検討し活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	錠剤を飲み込めなくなった利用者には薬剤師に安全を確認の上粉碎して頂いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園からの慰問をお願いしたり運営推進会議において利用者の紹介をし地域の参加できる行事を教えていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師間での協力関係も出来ており、専門は専門に受診できるように紹介状を出したりして利用者、家族の要望に答えるようにしている。	1日2回、幾島医院の院長先生と看護師に病状報告しており、必要時は来て下さる。毎週院長先生と話し合う場を持ち、疑問や要望を伝えている。医療面や内服、ケア内容、栄養等の指示を頂き、薬剤師との情報交換も行われている。夜勤者は、早出職員と一緒にバイタル測定を行い、申し送りも丁寧に行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の看護師とグループホームの看護師と連携して行っている。		

34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人が設立しているグループホームであるため、医師間での協力体制もあるので、早期に退院させ本人が混乱しないように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にきちんと延命の為の高度な延命処置はしないことを説明しており、重度化の兆しがあった場合すぐに再度の方針説明をし今後の対応を家族と話し合っている。	入居時に“看取りの方針”を説明し、ご本人や家族の意向を確認している。「最期までここで・・・」と希望される方ばかりで、この2年で9名の看取りがけが行われた。24時間体制で院長が駆け付けて下さり、最期まで誠心誠意のけが行われている。終末期もクリニックへの定時報告や話し合いと共に、薬の調整などの指示を受けている。家族には状態の変化や病状などを適宜報告している。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時にヒヤリハットやインシデント、事故報告の記録を検討し、緊急マニュアルを見直し、応急手当など確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	深夜想定避難訓練を何度も行っており、消防署や、設備会社に指導いただいている。市の防災マップ避難場所の確認は周知徹底している。マップは各部署に配っている。	コロナ以前は運営推進会議の際に消防署や消防団、地域の方(15名)等と夜間想定訓練が行われていた。コロナ禍は防火設備会社の方と夜間想定訓練を行うと共に、夜勤専門職員は遅出職員と一緒に避難誘導確認を毎回行っている。ハザードマップ上、津波による浸水が想定されており、2020年7月7日の大雨の際は、念のため地盤が高くなっているユニット2に避難した。災害に備えて缶詰や非常食、アルファ米、水、発電機4台等を準備し、賞味期限の確認も行っている。BCP計画も現在作成中である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を常に心がけている。	「排泄時の安全確認をしながらも、羞恥心の配慮をしていきましょう」という基本的なケアを徹底している。入浴時等はタオルを前に当てる等、羞恥心への配慮を続けている。介護が初めての方もおられ、管理者やリーダー等が研修を行っており、今後も人権研修等の参加の機会を作っていく予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけるよう支援している。まだ生活歴や家族からの聞き取りをして希望にそようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中でも休みたいとの希望があれば居室で休んでもらったり、起床時間が遅い利用者さんには、朝食を合わせて提供したりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る利用者には、好きな服を着てもらっている。出来ない利用者には好きな服を聞きながら服を決めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事の準備や片づけを出来る利用者はいない。	1日と15日はお赤飯、木曜日はパンの日である。朝と夕、日曜（3食）はホームで作り、日曜以外の昼は系列の“シニアンハウスやながわ”で調理したものが届く。汁物はホームで作っており、朝と夕食含めて調理専門の方が美味しい料理を作って下さり、旬の食材や郷土料理を取り入れている。「刺身が食べられない」等の方もおられ、献立を変えており、おやつ（芋饅頭・蒸しパン等）を手作りする時もある。ご利用者の方も後片付けや食器洗い、乾燥機に入れることなどをして下さる。食事介助が必要な方もおられ、嚥下能力に応じて食事形態を変え、時間をかけて介助が行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病のある利用者はカロリーや水分量について医師の指導を受けている。当院栄養士によるメニュー表を使っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。毎食後の歯磨き指導、支援。特殊な歯磨き粉を使ったり、本人が嫌がらない味の歯磨き粉を個人に合わせて使ったりして。特殊な口腔ケアの道具も利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のおむつ使用を減らし、日勤チェック簿で排泄のタイミングを図り介助している。おむつから布パンツに交換している利用者もいる。	下着を着用し、トイレで自立している方もおられる。意思疎通が困難で介助が必要な方も多い中、できる所はご自分でして頂いている。昼間に排便できるよう心掛けており、夜の安眠に繋げている。パッドの大きさも個別に検討しており、居室でのおむつ交換はカーテンとドアを閉めるように心掛けている。尿-リ留置の方は尿量測定を日に2回行い、クリニックの看護師が尿-リ管理等を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックとバランスの良い食事の提供やサツマイモ、バナナなどのおやつ工夫。個人個人の状態を確認、下痢の軽減につとめ快便につとめている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時は本人に確認を取り、体調に応じて入浴していただいている。認知低下にて1人で洗うことができず、声かけも不十分な場合は背部・臀部・下肢・頭髪は介助を支援している。	ご本人に「入浴好きかどうか」「入浴の回数」「湯温や入浴時間の長さ」「入浴の順番」等を確認している。1つのユニットは湯船に浸かれる方が多く、できる所は洗って頂いている。1つのユニットは湯船への移乗が困難な方が多く、シャワー浴（足浴）を行い、清潔保持に努めており、2人介助もされている。入浴時は会話や歌も聞かれています。介助を嫌がる方は時間をおいて、別の方が声かけしたり、脱衣場から声かけをしながら入浴していただいている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合った生活ができるよう寄り添い、声掛けをし、季節に応じて寝具や衣類・室温を調節して休んでいただいている。		

49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病名はカルテで確認、内服薬は処方箋で確認し誤薬がないようダブルチェックを行っている。状態変動が見られた際は主治医へ報告し薬の調整を行っている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り得たうえで本人に合った会話・好きな歌を聴いている。誕生日会や様々なイベントを企画し楽しんでもらっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人員の都合がつけば家族にも協力してもらい、外出の支援を行っているが、現在コロナ感染予防の為、中止している。	重度化されている方も多く、コロナ禍でもあり、外出は減っている。コロナ以前は梅の木街道等の花見にお連れしたり、家族とお盆や正月に自宅に帰られる方もおられた。コロナ禍も気候の良い時に庭のベンチで団欒されたり、お茶会などを行い、毎月の受診時も敷地内の花見を楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力と状態によっては持たせる事もあるが、トラブル防止の為施設で管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自ら電話や手紙のやり取りをできる方はいないが、家族からある際は本人と変わり会話ができるようにしている。介護師により月に1回家族へ写真や手紙を送っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・リビング等施設内で季節感のある花や絵を飾っている。温度・湿度管理を朝昼記録を行っている。	両ユニットとも平屋であり、できるだけ自然の光が入ってくるようにしている。床暖房であり、冬も足元を暖めて居心地の良い空間が作られている。1つのユニットはリビング等の共有空間が2か所あり、もう1つのユニットは台所とリビングが1つの空間にある。テーブルやソファ等が置かれ、庭を眺めることもできる。ご利用者の状況に応じてリビングのレイアウトを変更しており、台所から料理中の美味しそうな香りがしている。衛生面と清潔面等も徹底し、ホール内は綺麗に掃除している。	

55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中リビングで過ごしているので楽しく対談したり独りになる時は居室で自分の時間を過ごしたりと、強要せず本人の意見を尊重している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自、利用者の居室には家族の方と相談をしながら本人の使い慣れた物や写真等を置き、居心地よく過ごせるように工夫をしている。衣類の整理、衣替え等は担当スタッフが行っている。	居室の入口に、ご利用者の写真やネームプレート等を下けている。自宅からアルバム、鉢植え、写真、枕などを持ちこまれている。ベッド上で過ごさせる方もおられ、ご本人の目線に家族の写真が飾られている。温湿度管理も徹底し、換気も行われ、西日が強い部屋はカーテンを活用している。	

自己	外部		外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースであるリビング・トイレ・廊下等の物の定着や整理整頓をしている。	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				